



古谷 眞司 議員 … 1 件の一般質問

グローバル人材育成への取り組みは

教育長：さらなる向上を目指す

古谷 本町において著しい生活環境の変化に伴い、教育現場においても、さまざまな取り組みをされている。特色のあるところでは英語教育への取り組みと考る。そこで教育長へ2つの観点から伺う。

本町の取り組みと、その成果及び評価を伺う。導入検討について伺う。

教育長 本町の小中学校での英語教育への取り組みは、英語教育に関し、教育課程に従った学校での授業のほか、町独自の取り組みとして、小中高の英語連携事業を行っている。この連携事業では、教員相互による乗り入れ授業や、イングリッシュデイキャンプを実施してきた。

乗り入れ授業では、小中高の英語担当の教員が実際にそれぞれのクラスに入り、授業を行う内容で、日本語を極力使わない、英語を中心とした形式での授業となり、子どもたちにとっては大変新鮮な体験だった。

また、教員同士が交流

することにより、小学校では中学校を、中学校では高校というように、次のステップを意識した指導を検討する機会となり、日常の指導の上でも互いに参考になった。

実施回数は、前期、後期でそれぞれ1回ずつ行つたが、もう少し回を重ねることができればより効果も上がるものと考ええる。

イングリッシュデイキャンプは、合計3回実施をした。先生方のプログラム工夫により、英語漬けの1日を過ごすことができた。

今年度の事業では、小中高の町内全ての学校の先生方や児童生徒が交流



イングリッシュキャンプの様子

を深め、その中で英語に慣れ親しむことを主な目的として実施をしていく。本町の子どもたちがこうした体験を通じ、まずは英語を好きになり、次に英語によるコミュニケーション能力をつけ、この地を訪れる多くの外国人のかたがたと会話を楽しむことができるようにする。

また、これらの取組の中で、例えば資格取得の目標なども設定していくことも英語力向上を進めるとも考える。

古谷 28年度教育行政執行方針に示されている、本町独自の地域性を活かし創意工夫を重ね

ながら充実した教育環境にしていくと述べている。そこで、世界で140カ国、日本国内では36校が認可を受けている、国際バカロレアの教育プログラムを、小中学校または、高校との連携での導入検討について伺う。

教育長 国際バカロレア（IB）は、国際

バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラムであり、全人教育を通じて主体性を持ち、バランス感覚にすぐれた国際社会で貢献できる人材の育成を目的としている。

IBのプログラムには現在、生徒の年齢に応じて4つのプログラムがあり、このうち高校相当のディプロマプログラム（DP）では、2年間のカリキュラムを履修し、国際バカロレア機構が実施する世界統一の試験を経て、所定の成績をおさめることにより、国際的に通用する大学入学資格（IB資格）の取得が可能である。また、このIB資格とその成績結果は、

海外の大学入試等にお

ても広く活用されているとある。

全国的には、大学入学資格が取得できるDPが主流のようで、義務教育年齢が対象となる、ほぼ小学校の子どもたちを対象とした年齢によるものPYPや、中学校の子どもたちを対象としたMYPとなつているが、このMYP課程の国内認定校の状況は、全国でも4校のみとなつている。

また、導入に際しては、IB国際バカロレアの認定校となる必要があり、認定に向けての各種手続きや教育課程の見直し、それに伴う教職員の研修、学校施設の改修など、さまざまな準備が必要となることから、本町の小中学校においては、IBの義務教育課程への導入というのは難しいものである。

本町としては、現在、小中高が連携を行っている英語における取り組みをさらに充実発展し、本町の子どもたちのコミュニケーション能力の向上に努めていく。